



日本英語検定協会 協会案内

公益財団法人 日本英語検定協会

設立年 1963年(昭和38年) 代表者 理事長 松川 孝一

オフィス所在地 [東京オフィス] 〒162-8055 新宿区横寺町55

[大阪オフィス] 〒530-0003 大阪市北区堂島1-6-20 堂島アバンザ4階

創設の想い

英検協会創設のきっかけは、1964年の東京五輪――

前年の1963年に日本人の英語力向上のため、

財団法人日本英語検定協会(2012年に現在の公益財団法人へ移行)が誕生しました。

英検協会はこれまで、実施級や測定技能の増設、準会場での試験実施をはじめとする受験方法の多様化、

また大学での学びやビジネスなど様々なシーンにおける英語力を測定する試験の導入など、

時代のニーズにあわせて様々な進化をまいりました。

取り組みが変わっても、小さいお子さまからご年配の方の生涯学習に寄り添い、

英語学習者の頑張りを応援していくことは、60年以上変わることのない我々の使命であると考えております。

変わりゆく時代の中で、英検協会は常に次代を見据えて、

我が国が推進するグローバル人材の育成を全力で支援してまいります。



実用英語で、 人生ひろがる。

子どもの頃から英語に親しんでほしい。

入試に向けて英語力を高めたい。ビジネスでグローバルに活躍したい。

憧れの留学のために英語力を磨きたい。海外旅行でのコミュニケーションを楽しみたい。

様々な目標や希望のために、

英検協会は多くの方の人生に寄り添っています。

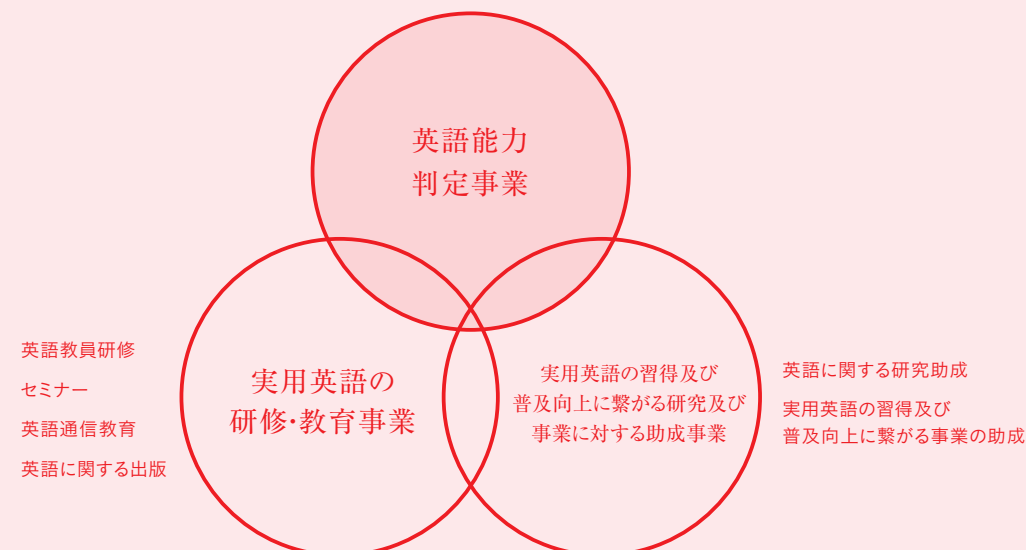


理念

日常の社会生活に必要な実用英語の習得及び普及向上に資するため、
英語の能力を判定し、また様々な機会を通じてその能力を養成することにより、
生涯学習の振興に寄与することを目的とする。

事業内容

日本英語検定協会は、公益財団法人として、
多様な公益目的事業を行っています。



英検協会は時代に合わせて進化し、「生涯学習」を支えてまいります。

英検協会はこれまでわが国の英語教育の指針に沿って、英語学習者の生涯にわたる実用英語の向上のためのサービス革命を使命としてきました。これからもデジタルテクノロジーをさらに活用し、これまで以上に英語学習者に寄り添い、グローバル人材の育成に取り組んでまいります。

これからの大きな **3** つの取り組み

01

問題形式一部
リニューアルで、
より思考力が
深まる試験に！

▶ P03

02

新設級(準2級プラス)
導入で、モチベーション
の向上に！

▶ P05

03

サービス
「生涯学習アカウント」で
一生の英語学習を
サポート！

▶ P06

01

問題形式一部リニューアルで、より思考力が深まる試験に！

2024年度より、1級・準1級・2級・準2級・3級の問題形式を一部リニューアルいたします。

リニューアルの目的

< 現行学習指導要領の「外国語」で求められること >

複数の技能(領域)を統合した
言語活動の充実を図ること

知識や技能の習得だけでなく、コミュニケーションを行う目的や場面、
状況等に応じた言語の運用を考える中で
思考力、判断力、表現力等の育成

新たな英語能力観を反映した出題形式を取り入れた新問題の実施が必要だと判断しました。

リニューアルの内容

※該当箇所を赤色枠で示しています。

級	一次試験(筆記試験)			二次試験	
	Reading	Writing	試験時間	Listening	Speaking
1級	41問→35問 ・大問1:短文の語句空所補充 →3問削除(単語問題) ・大問3:長文の内容一致選択 →3問削除(設問No. 32-34)	英作文問題の出題を 1題から2題に増加 既存の「意見論述」の出題に加え、 「要約」問題を出題	変更なし (100分)	変更なし	変更なし
準1級	41問→31問 ・大問1:短文の語句空所補充 →7問削除(単語問題) ・大問3:長文の内容一致選択 →3問削除(設問No. 32-34)		変更なし (90分)	変更なし	受験者自身の意見を 問う質問 (No. 4)に話題導入文を追加
2級	38問→31問 ・大問1:短文の語句空所補充 →3問削除(文法問題など) ・大問3B:長文の内容一致選択 →4問削除(設問No. 30-33)		変更なし (85分)	変更なし	変更なし
準2級	37問→29問 ・大問1:短文の語句空所補充 →5問削除(熟語・文法問題など) ・大問3B:長文の語句空所補充 →3問削除(設問No. 28-30)	英作文問題の出題を 1題から2題に増加 既存の「意見論述」の出題に加え、 「Eメール」問題を出題	時間延長 (75→80分)	変更なし	変更なし
3級	変更なし		時間延長 (50→65分)	変更なし	変更なし

このたびのリニューアルに伴い削減する設問番号は()内です。2023年度までの現行の設問番号を表します。
※なお、合格基準スコア、CEFR算出範囲の変更はございません。

出題例(3級)

3級 Writing 既存の「意見論述」の出題に加え、「Eメール」問題を出題

- あなたは、外国人の友達 (James) から以下のEメールを受け取りました。Eメールを読み、それに対する返信メールを、に英文で書きなさい。
- あなたが書く返信メールの中で、友達 (James) からの2つの質問 (下線部) に対応する内容を、あなた自身で自由に考えて答えなさい。
- あなたが書く返信メールの中で に書く英文の語数の目安は、15語~25語です。
- 解答欄の外に書かれたものは採点されません。
- 解答が友達 (James) のEメールに対応していないと判断された場合は、0点と採点されることがあります。友達 (James) のEメールの内容をよく読んでから答えてください。
- の下の Best wishes. の後にあなたの名前を書く必要はありません。

解答例:

We had a great time! There were twelve people at the party. The food was great!
We had some pizza.

評価観点:

解答は3つの観点(内容、語彙、文法)で採点されます。
観点ごとに0~3点の4段階で評価され、得点の満点は9点となります。

Hi,

Thank you for your e-mail.
I heard that you went to your friend's birthday party. I want to know more about it. How many people were at the party? And how was the food?

Your friend,
James

Hi, James!

Thank you for your e-mail.

解答欄に記入しなさい。

Best wishes,



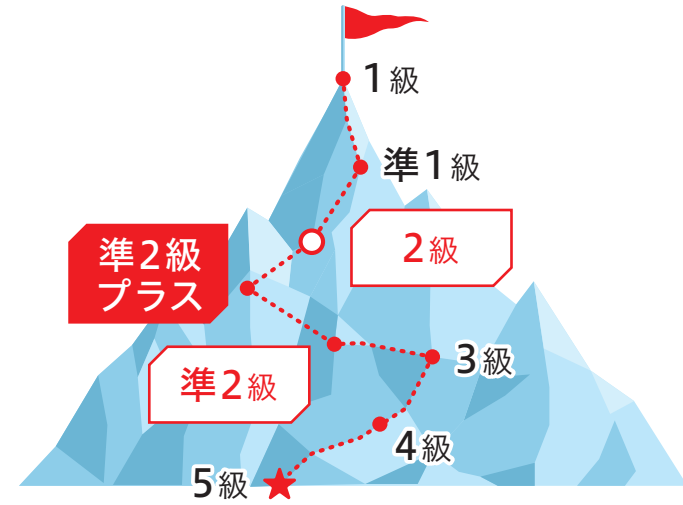
詳しくは特設サイトへ
他の級の出題例や、有識者メッセージがご覧いただけます。



02

2025年度(予定)からの 新設級『準2級プラス』導入で、 モチベーションの向上に!

これまで1級から5級まで7つの級で皆さんの生涯学習をサポートしてきましたが、2025年度より2級と準2級の間に『準2級プラス』を新設します。

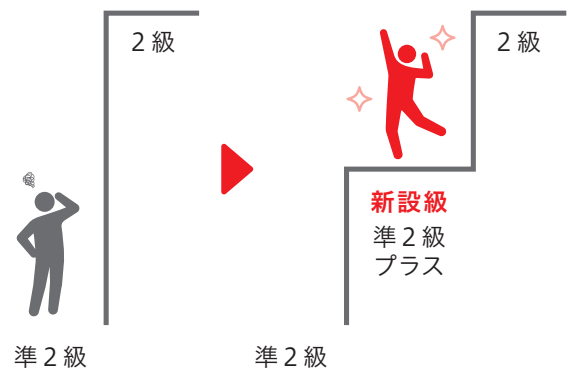


新設級による「2級の壁」の解消

準2級取得後、2級合格までに時間がかかってしまい、2級合格を諦め、そのまま英語学習から離脱する方がいるのではないかと考えました。
英語学習者がより高いモチベーションを維持したまま英語学習を続けられるように“2級合格への足掛かり”として、成功体験を積み重ねていただくため、準2級プラスを新設します。

『準2級プラス』で期待される効果

- ① 2級に向けた**学習の取り組みが適切**であることを確認できる
- ② 自分の英語力が**2級合格に近づいている**ことを実感できる
- ③ **モチベーションが高まり**英語学習を継続していく



準2級プラスの位置づけ (難易度イメージ)

準2級はCEFRのA2(Basic User)であるのに対し、2級はB1(Independent User)レベルに対応しています。準2級プラスは、2級と準2級の橋渡しとして、審査基準「身近な話題であれば、社会生活に必要な英語を理解し、また使用することができる」となります。
<参考>
2級：社会生活に必要な英語を理解し、また使用することができる。
準2級：日常生活に必要な英語を理解し、また使用することができる。

CEFR	英検CSEスコア	各級の合格スコア	合格スコア	
Proficient User	C2	4000 3300		
	C1	3299 2600		
Independent User	B2	2599 2300	2400 (満点スコア)	2500 (満点スコア)
	B1	2299 1950		2600 (満点スコア)
Basic User	A2	1949 1700	1728 準2級	1829 準2級プラス (1949)
	A1	1699 1400		2級 1980
	A1	1399 0		

※準2級プラスでは4技能の総合スコアにより、CEFRのA1～A2のレベルが算出されます。

最新の情報は英検協会ウェブサイトをご確認ください

03

新サービス 「生涯学習アカウント」で 一生の英語学習をサポート!

英検の受験や履歴管理が、より簡単に、より安心して、より便利になります。



生涯学習アカウントとは

「生涯学習アカウント」は英検協会が生涯に渡って英語を学習する皆様を支援する認証サービスです。ご利用いただくことで、より安全に、手間なく、英検のお申し込みや合否閲覧が可能となります。(サービス利用にはメールアドレスが必要です。)
学習者のライフステージが変わっても、同一のアカウントで英検を受験し続ける事ができ、その履歴を振り返る事ができます。

- AIにより認証補助でパスワードが不要
- 不正ログインを検知 高い安全性
- 同アカウントでご家族内などの複数名手続きが可能

今後も進化する 「生涯学習アカウント」に ご注目ください!

生涯学習アカウントサービスはこれで終わりません。検定だけでなく学習コンテンツや学習フィードバック等、様々なサービスコンテンツを今後も拡充して参ります。
また生涯に必要な学習は英語だけに限りません。英検受験をきっかけに他の分野の学習にも取り組むことも応援するアカウントに発展させていきたいと考えています。



最新の情報は英検協会ウェブサイトをご確認ください

Topics



IELTS公式 東京駅前テストセンター(東京駅 直結)開設

公益財団法人 日本英語検定協会が運営するIELTSの公式東京テストセンター(JP500)につきまして、このたび2023年10月より、東京駅八重洲口(駅直結)にIELTSコンピューター版のテストセンターを開設いたしました。

IELTSについて詳しくはこちら

一人一人の夢や目的に寄り添う英語検定を。

英語能力判定事業では、生涯にわたって英語を学び続けることの楽しみを届ける「英検テストファミリー」と、ビジネスや入試・留学などの目的に合わせた英語力を測定する多彩なテストをご用意しています。それぞれの道で英語学習に取り組む皆さま、指導者の皆さまをサポートいたします。

英検テストファミリー

生涯にわたり ステップアップしながら 英語力を測るマイルストーン

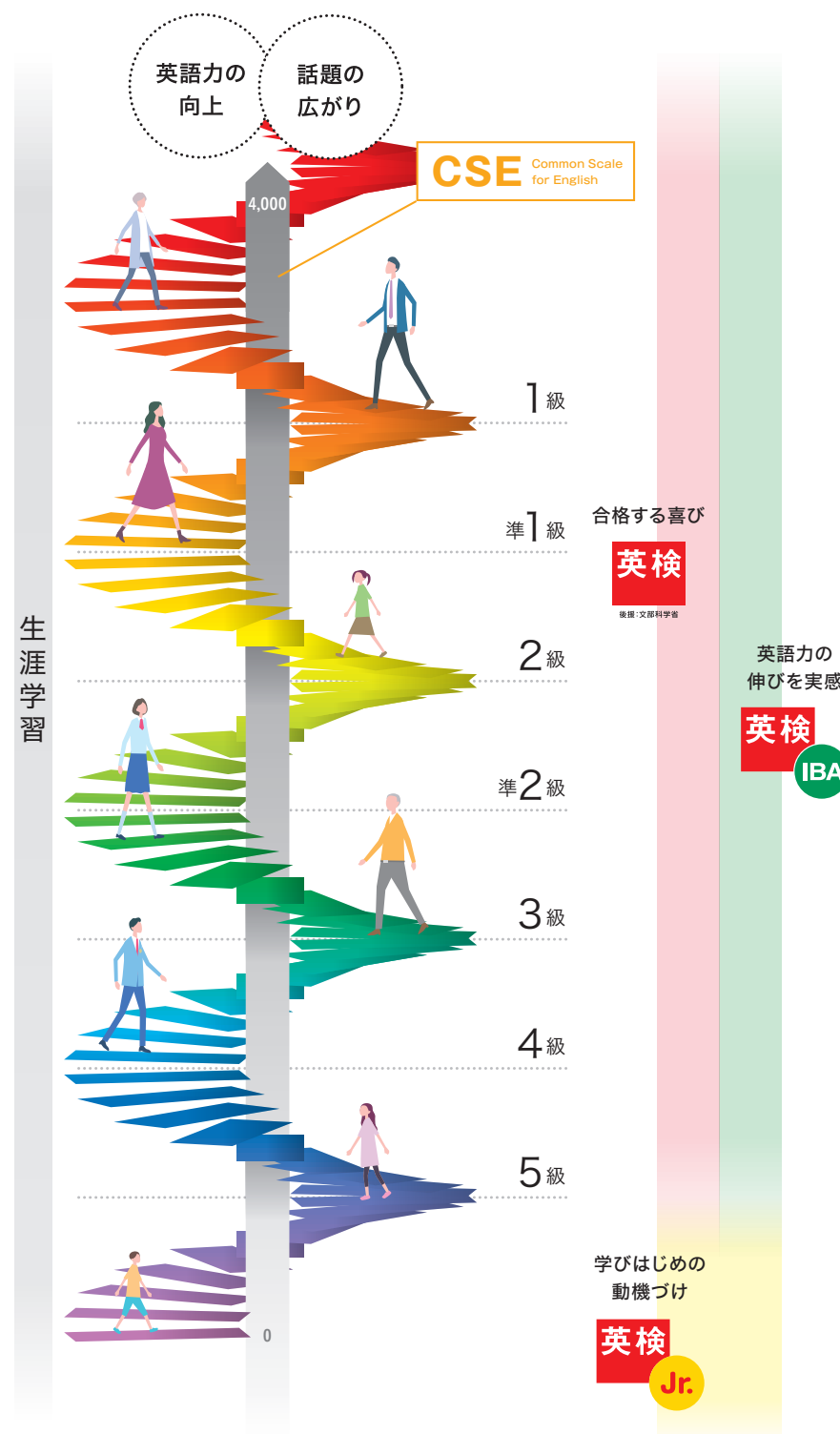
英検テストファミリーとは、「実用英語技能検定(英検)」「英検IBA」「英検Jr.」を総称したものです。英検には7つの級があり、どこからでも受験が可能。また、英検IBAは英語力を手軽に測ることができ、英検Jr.は英語への親しみや興味を持つきっかけづくりとして最適です。世代を問わず、あらゆる英語レベルに対応した試験が用意されており、国際標準規格CEFRに対応するCSEスコアとも照らし合わせながら、自分の英語力を確かめることができます。

学習塾で英検級レベルを手軽に測定できる

英検 プレテスト

小学校英語教育のための学習支援パッケージ

英検 Support Program ESG



その他の 英語能力測定テスト



目的に合った英語力を 正しく測定

入試、留学や海外移住、ビジネスなど、新たなステージに進むために自身の英語力を証明できるのが「TEAP」、「IELTS」、「GCAS」、「Linguaskill Business」の4種類のテストです。それぞれが目的に合った適切なテスト内容であり、評価規準なども明確にされていることから対外的な信頼も高く、英語力証明のスタンダードとして広く活用されています。

世界基準での英語力を判定できるCSEスコアと連動

英検テストファミリーの試験結果は、国際標準規格CEFRに対応した「CSEスコア」で客観的に評価できます。英検5級から1級まで全級に対応しており、技能別にそれぞれ評価されるため、自分の現在の実力や苦手部分が一目瞭然です。

Common Scale for English(CSE) 2.0イメージ図

R: Reading L: Listening S: Speaking W: Writing
 ※1: 4級と5級の合格については、一次試験(RLの2技能)のみで判定いたします。
 ※2: リーディング、リスニングの2技能のみの満点 ※3: スピーキングを含めた3技能の満点

CEFR	CSE 2.0	IELTS	TEAP	TEAP CBT	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	英検Jr.
C2	4000-3300 ※調査中	9.0-8.5			満点 3400	満点 3000	満点 2600	満点 2400	満点 2200	満点 1500 ^{※3}	満点 1275 ^{※3}	
C1	3300-2600	8.0-7.0	400-375	800	合格 2630	合格 2304	合格 1980	合格 1728	合格 1456	満点 1000 ^{※2}	満点 850 ^{※2}	
B2	2600-2300	6.5-5.5	374-309	795-600						合格 622 ^{※1}	合格 415 ^{※1}	
B1	2300-1950	5.0-4.0	308-225	595-420								満点 385
A2	1950-1700	-	224-135	415-235								満点 320
A1	1700-0	-										

4技能(RLSW)に対応したスコア
 3技能(RLS)に対応
 1技能(L)に対応

英検

実用英語技能検定

実用英語技能検定(英検®)は幅広い世代が受験している国内最大級の英語検定試験の一つで、累計1億人以上の方に受験されています。時代に合わせてリニューアルを繰り返し、日本全国、海外でも受験していただいています。

後援:文部科学省

※実用英語技能検定、英検IBA、英検Jr.の志願者数の合算

英検の魅力

生涯有効

一度取得した級や英検CSEスコアは、生涯有効です。入試、留学、ビジネスなど様々なシーンで英語力の証明に活用^{※1}することができます。

実力に合わせてステップアップ

全部で7つの級を設定しています。英語初学者でも学習進度やレベルに合わせた無理のない目標を設定でき、5級から成功体験を積み重ねていける仕組みとなっています。

詳細な成績表

成績表には可否に加えて、英検CSEスコアとCEFRレベル^{※2}を記載します。技能別に表示するため、苦手分野がわかります。

※1:提出される機関(大学入試で大学へ、就職試験で企業へ)によって、取得期間を定めている場合がございますので、提出先の条件を必ずご確認ください。
 ※2:4級・5級は算出対象外のため表示されません。また、受験級によってCEFRレベルを算出するための英検CSEスコアの範囲(CEFR算出範囲)を定めています。
 詳しくは英検ウェブサイト(https://www.eiken.or.jp/cse/)をご確認ください。

英検の7つの級と特徴

英語の基礎を身につけ、一歩ずつ確実にステップアップできる5級・4級・3級。使える英語の幅を広げ、世界へ飛躍する力を養う準2級・2級。そして、品格ある英語学習者として国内外で高く評価される準1級・1級。受験者の英語レベルに応じて、どの級からでもスタートすることができます。出題される題材も身近な話題から社会・経済・ビジネスなどへ広がっていきます。

目安	5級	4級	3級	準2級	2級	準1級	1級
	中学初級程度	中学中級程度	中学卒業程度	高校中級程度	高校卒業程度	大学中級程度	大学上級程度
時間の目安	一次試験 筆記 25分 リスニング 約20分	一次試験 筆記 35分 リスニング 約30分	一次試験 筆記 65分 リスニング 約25分	一次試験 筆記 80分 リスニング 約25分	一次試験 筆記 85分 リスニング 約25分	一次試験 筆記 90分 リスニング 約30分	一次試験 筆記 100分 リスニング 約35分
	二次試験 スピーキングテスト*	二次試験 スピーキングテスト*	二次試験 面接 約5分	二次試験 面接 約6分	二次試験 面接 約7分	二次試験 面接 約8分	二次試験 面接 約10分
試験内容	一次試験 筆記 リスニング テスト 主な題材	一次試験 筆記 リスニング テスト 主な題材	一次試験 筆記 リスニング テスト 主な題材	一次試験 筆記 リスニング テスト 主な題材	一次試験 筆記 リスニング テスト 主な題材	一次試験 筆記 リスニング テスト 主な題材	一次試験 筆記 リスニング テスト 主な題材
	二次試験 スピーキング テスト 過去の 出題例	二次試験 スピーキング テスト 過去の 出題例	二次試験 スピーキング テスト 過去の 出題例	二次試験 スピーキング テスト 過去の 出題例	二次試験 スピーキング テスト 過去の 出題例	二次試験 スピーキング テスト 過去の 出題例	二次試験 スピーキング テスト 過去の 出題例

※4級・5級スピーキングテストは一次試験の可否に関わらず、お申し込みいただいた方全員が受験いただけます。対面式の面接ではなく、コンピューター端末を用いた録音式で、ご自宅で受験可能です。
 なお、級認定は一次試験のみで判定します。
 ※2025年に2級と準2級の間に新設級(準2級プラス)が加わる予定です。

受験方法

英検

後援:文部科学省

英検(従来型)

国内最大級の
英語検定試験

詳細・お申し込みは
英検(従来型)ウェブサイト
をご覧ください。



団体申込 個人申込

年に3回の受験機会

英検(従来型)は年に3回の受験機会があります。一次試験でリーディング、ライティング、リスニングの3技能を測り、合格した方のみ二次試験(対面式のスピーキングテスト)をご受験いただけます。

準会場と本会場

英検協会が設置する本会場は、離島を含む全国230都市、約400会場で開催。また、準会場として登録された学校や塾などで受験可能です。

受験機会の拡大

全国47都道府県、約80*エリアのテストセンターから都合のよい会場・日時をご選択いただけます。英検S-CBTは同一検定回と同じ級を最大2回、英検(従来型)と合わせると最大3回の受験が可能です。
 ※2024年3月現在

1日で4技能を受験可能

スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングを1日で受験し、一度でスコアを取得できます。

都合に合わせて日程が選べる

対象級は準1級~3級で、原則、毎週末に試験実施を行っているため、仕事や部活などで英検(従来型)の日程が合わない方にもご活用いただけます。

英検 S-CBT

後援:文部科学省

英検S-CBT

1日で4技能を
測定できる英検

詳細・お申し込みは
英検S-CBTウェブサイト
をご覧ください。



個人申込

CBT方式の受験が難しい方のための方式

英検 S-Interview

後援:文部科学省

英検S-Interview

個人申込

一次試験と二次試験の両方を受験

一次試験(リーディング、ライティング、リスニング)の約1カ月後に二次試験(スピーキング)を受験します。一次試験の可否に関わらず4技能全てを受験可能です。対象級は1級~3級です。

柔軟な対応

英検(従来型)と同様の実施方式のため、英検S-CBTでの受験が困難な方にも、柔軟な対応が可能です。

※英検S-Interviewは、合理的配慮が必要な障がい等のある受験者様のみを対象に実施いたします。



詳細・お申し込みは英検S-Interviewウェブサイトをご覧ください。

団体向け成績提供システムのご案内

「団体向け成績提供システム」では、児童・生徒が個人受験または別の団体で受験した成績を、希望する団体が受け取ることができます。成績に基づく学習指導や入試での成績証明にお役立てください。
 ※ご本人の承諾と登録が必要です。

対象の検定試験



詳しくは「団体向け成績提供システムのご案内」ウェブサイトをご覧ください。





英検 IBA

「短時間」・「低価格」で
英語力を測定



※学校・教育委員会向け

Point

いつでも・どこでも実施が可能

試験問題は5つのレベルがあり、RL(リーディング・リスニング)、WS(ライティング・スピーキング)、RLWS(4技能)の3つのタイプを用意しています。試験の実施日は、ご都合に合わせてお好きな日を選択することができます。

リーズナブルな受験料

英検IBAの受験料はRLが500円、WSは2,700円、RLWSは3,000円となっています。短時間・低価格で受験でき、多くの団体や自治体で日常的な英語力の測定、学習結果の確認、目標設定に活用されています。

英検 IBA CSEスコア・英検級の目安がわかる

テストの結果は、団体成績表と個人成績表の2種類をご提供いたします。団体成績表には、英検IBA CSEスコア、英検級レベル、CEFRレベルを記載し、また個人成績表には、受験者のレベルに合った問題など、今後の指導に役立つ情報が満載です。



学習塾向けには「英検プレテスト(RLのみ)」をご利用ください。

詳細・お申し込みは
英検 IBA ウェブサイトへ



英検 Jr.

英語に親しみ自信を育む、
育成型テスト



※オンライン版のみ

Point

オールリスニングのテスト

英語学習の入門期に最も大切と考えられている、リスニング力を測る形式のテストです。英語を聞いてそれに合ったイラストなどに○をつける(オンライン版はクリック)簡単な解答方法です。



小学校の外国語活動に対応

テストは小学校外国語活動の「コミュニケーションを図る態度の育成」や「音声や基本的な表現に慣れ親しませる」などを考慮してつくられており、外国語活動の成果検証としてご利用いただけます。

合否のない「育成型」

英語への親しみや、興味・関心を持つきっかけをつくり、英語でのコミュニケーションは楽しいと感じてもらうことで、英語学習に積極的に取り組む姿勢を身につけることを目的としています。子どもに「できた!」という喜びを実感してもらい、学習の動機づけになるように成績は合否ではなく、「正答率」で表し、次のグレードへの目安も添えたスコアレポートを提供します。

詳細・お申し込みは
英検 Jr. ウェブサイトへ



英検 ESG

小学生の「英語でできる!」の
積み重ねをサポート



※小学校のみ ※教育委員会向け

Point

小学校英語教育のための 学習支援パッケージ

小学校英語教育の指導改善と学習到達状況の確認を行うために誕生したサポートプログラムです。教員向け「指導パッケージ」と児童向け「確認パッケージ」の2つで構成されています。2つを併用することで、英語の指導に不慣れな先生方をサポートしつつ、児童の小学校英語の習得状況を適切に把握することが可能になります。小学校の新学習指導要領「外国語活動」と「外国語」において、先生や児童が体系的な学びを行い、英語の資質・能力の素地と基礎を育みます。

わかりやすい CAN-DOリスト形式

指導パッケージは、小学校「外国語」の学習内容を整理した7つのすざろく形式の言語活動ワークシートで構成されています。それぞれのワークシートに対応したCAN-DOリストを活用することで、児童が英語でできることの積み重ねを実感できる仕組みとなっています。

学習到達度を見える化

確認パッケージは児童の学習到達度を測り、客観的指標で表すことができる測定ツールです。



お問い合わせは
こちらから



TEAP

大学で学習・研究する際に
必要な英語力を測る



※高校1年生以上

Point

大学でのシチュエーションが題材

TEAP(ティーブ)とは、英検協会と上智大学が共同開発した、大学で学習・研究する際に必要とされるアカデミックな場面での英語運用能力を測定するテストです。出題される問題は、大学教育で遭遇する語彙・場面・分野(英語で講義を受ける、英語の文献を読み解く、英語で発表を行うなど)を想定した設定・内容となっており、アカデミックな英語に特化しています。



1対1の面接方式のスピーキングテスト

スピーキングテストは、ロールプレイ型のインタビューやテーマに沿ったスピーチなど実践的な内容です。

全国の大学入試で採用!

難易度は英検準2級から準1級レベル程度を想定。選別された高質な問題で、総合的な英語力を正確に測定します。その信頼性から全国の大学入試でTEAPが採用されています。

複数技能を組み合わせた統合型問題で、
実践的な英語力を測定



※高校1年生以上

TEAPの発展型として開発され、ICTの多様な機能を利用することで実践的な英語力をよりリアルに測定するテストです。

※TEAPとTEAP CBTは異なるテストです。
※2024年度第3回で実施終了。成績表発行は2025年度末まで対応いたします。

詳細・お申し込みは TEAP ウェブサイトへ



IELTS

国内外への進学、就労、海外移住のための
国際的な4技能英語運用能力証明



Point

世界140カ国、11,000以上の機関が認定

IELTS(アイエルツ)は、英語でのコミュニケーション能力を証明する信頼性の高い指標として、英国、米国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドなどの11,000以上の機関で認定。留学や海外移住の際の英語力証明に最適なテストとして広く認知されています。英検協会は2010年よりブリティッシュ・カウンシルと日本でのIELTSを共同運営し、2022年からはパークレーハウスが英検協会のサブセンターとして提携を開始しました。

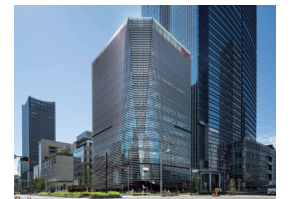
対面式でのスピーキングテスト

IELTSのスピーキングテストは面接官との対面式を採用しています。1対1のFace to Faceのスピーキングテストはあなたの英語力を試す最も効果的で自然な方法です。



受験地が多いIELTSペーパー版、 受験日が多いIELTSコンピューター版

IELTSペーパー版は、全国主要都道府県で開催されており、受験のしやすさがポイントです。また、IELTSコンピューター版は、東京、名古屋、大阪でほぼ毎日開催しており、忙しい方でも予定を合わせやすいというメリットがあります。また東京テストセンターは、JR東京駅八重洲口から徒歩2分と非常にアクセスの良いIELTSコンピューター版のテスト会場として、2023年10月に新設されました。



英国政府が認めた
英国ビザ申請のために
必要な英語能力証明テスト

IELTS for UKVI / IELTS Life Skills

詳細・お申し込みは IELTS ウェブサイトへ



GCAS

ビジネスで求められる実践的英語力を測る
対面型スピーキングテスト

団体申込 個人申込

※リモート受験可

Point

1対1のスピーキングテスト

GCAS(ジーキャス)の試験方式は、面接官との1対1の対面型スピーキングテストです。データを分析し、説明できる英語力や相手の反論に対応できる英語力など、ビジネスで求められる実践的英語力を評価します。

5つの英語力を測る



詳細・お申し込みは GCAS ウェブサイトへ



通信講座・学校教材の提供

英検協会では、授業や自学自習に役立つ学校教材と、「目標設定、学習、課題提出、復習」のサイクルで行える個人向け通信講座を提供しています。総合英語、実践的ビジネス英語、スキル別英語など豊富なラインナップをご用意しています。

詳細・お申し込みは
英検 通信講座/学校教材
ウェブサイトへ



文部科学省認定通信講座

「実用英語講座」シリーズ

- 1級クラス
- 準1級クラス
- 2級クラス
- 準2級クラス
- 3級クラス
- 4級クラス



※「Deep Listening」および「Step Up Listening」の音声はストリーミングサイトでも提供します。

高校生向け教材 大学入試のリスニング対策に

Deep Listening

「深く聴く」を重点にした「育成型」リスニング教材です。

- レベル1 (英検3級程度)
- レベル2 (英検準2級程度)
- レベル3 (英検2級程度)



授業に、補習に、英検レベル別問題が300問

Step Up Listening

1回10分10問×30回分のリスニングテストセットです。

- Step1 (英検4・5級レベル)
- Step2 (英検3級レベル)
- Step3 (英検準2級レベル)
- Step4 (英検2級レベル)



Linguaskill

ビジネス

Linguaskill Business

ビジネスでの総合的な英語力を測る
オンライン4技能テスト

団体申込 個人申込

※リモート受験可

Point

グローバルビジネスで求められる英語力を測定

ケンブリッジ大学英語検定機構が開発し、公益財団法人日本英語検定協会が正規代理店として国内の販売・運用を行っています。世界50カ国の企業や団体で活用されているテストです。



Authorised Linguaskill Agent

個々の英語力に応じた出題形式

Linguaskill Business(リンガスキルビジネス)のReading & Listening テストは、受験者の英語のレベルに合わせたアダプティブな出題形式を採用しています。

短時間でスキルを測定

オンライン形式により、4技能を約2.5時間で測定。受験後、最短3営業日後に試験結果を通知いたします。

詳細・お申し込みは
Linguaskill Businessウェブサイトへ



実用英語の研修・教育事業

英語情報 Web

英語教育の今を知る。明日からの授業が変わる。

パソコン・スマートフォンから
いつでもご確認いただけます



英語教育の“今”をお届けします。

すぐに授業で使えるコンテンツをはじめ、様々な工夫などを取り入れた全国各地の先生方の実践記事など、英語教育に関わるすべての方に役立つタイムリーな情報を発信しています。

英語情報Web掲載記事のご紹介

平成から令和へ ～日本の英語教育はどうあるべきか～

名古屋外国語大学 外国語学部
英語教育学科長 教授
太田 光春 先生



文部科学省初等中等教育局の教科調査官として平成20-21年の学習指導要領改訂に携わり、その後は視学官として「教育は、全ての子供たちの学びの可能性を信じるのが前提」という信念のもと、英語教育の改善に尽力してきた太田教授から、新たな時代の教育と教員に求められる姿勢についてお話を伺いました。



小学校外国語・外国語活動の 学習評価について

文部科学省 初等中等教育局
直山 木綿子 視学官



文部科学省初等中等教育局 情報教育・外国語教育課 外国語教育推進室のご協力により、「学習評価の在り方」について、直山木綿子 視学官に小学校の「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策所、令和2年3月)に基づいてご解説いただき、動画にまとめました。



子どもの英語教育に関わる 先生方へ

愛知県立大学 外国語学部 教授
池田 周 先生



このコラムでは、特に小学生に英語を教えたい先生方に向けて、英語教育にまつわる様々なトピックについて池田教授から簡潔に分かりやすくお話しさせていただきます。小中接続に向けて、中学校の先生方にもぜひ目を通していただきたい内容です。



ケンの冒険

The Adventures of Ken

英語のショートアニメ(クエスチョン・スクリプト付き)で楽しく英語が学べます。



先生のための 授業参観

全国の学校現場で行われている授業づくりの取り組みをご紹介します。



「英語情報Web」トップページへ。メルマガ登録もおすすめです。



研究助成制度

英語教育の発展に寄与する研究をサポートする制度

「英検 研究助成制度」は、英語教育の普及・発展と英語能力テストの質的向上を目的に1987年にスタートしました。全国の小学校・中学校・高等学校・高等専門学校の先生方、大学院生の方から研究テーマ(企画)を募集。英語教育やテストの専門家による選考を経て、入選者に助成金を交付して、研究を支援しています。例年、2月に研究テーマ(企画)の募集を開始し、7月に入選者が決定します。その後、入選者は約1年をかけて、専門家の助言を得ながら、報告書を完成させます。この制度は広く長く英語教育関係者の間で活用され続けています。

募集テーマ

研究部門

<英語能力テストに関する研究>

英語学習者の英語能力向上に資する基礎及び応用研究または英語能力の測定と評価等の研究の報告とする。

実践部門

<英語能力向上をめざす教育実践>

小学校、中学校、高等学校の英語教育現場の中で児童・生徒の英語学習を促進させるための効果的な英語指導法等に関する実践の報告とする。

調査部門

<英語教育関連の調査・アンケートの実施と分析>

小学校、中学校、高等学校の英語教育をより充実させ、効果的に推進するために必要な調査の報告とする。

研究助成金

- 助成金交付額……各部門30万円以内
- 入賞対象件数……15件以内(全部門あわせて)

※いずれの部門も、助成交付額に相当する研究内容であることを選考の条件とします。

応募資格者

- 小学校・中学校・高等学校・高等専門学校で英語教育に携わる教員の方
- 英語教育に関わる研究を専攻する大学院に在籍する方

※応募条件の詳細は下記ウェブサイトにてご確認ください。

第36回「英検」研究助成 入選テーマ(敬称略)

【研究部門 3件】

中学生及び高校生の英語学習エンゲージメントに関する実証的研究：文脈的モデルの妥当性検証

明治大学大学院 在籍 榎村 祐志

結束性指標に基づく日本人英語学習者の
エッセイライティングスコアの予測

筑波大学大学院 在籍 久保 佑輔

英検の長文テキストの読解に接辞の知識はどれくらい必要か？
—Morpholex Affix Profilerを用いた検討—

筑波大学大学院 在籍 駒野 樹

【実践部門 4件】

ディベートスキルとジャッジスキルの向上を目指した
高校生英語ディベート初心者への効果的なフィードバック

福岡県立春日高等学校 教諭 坂口 寛子

明示的知識を外化して正確性の向上を目指す指導の効果
—長期的な筆記ランゲージング・エピソードの分析を中心に—

筑波大学附属高等学校 教諭 高木 哲也

ディスカッション活動において高校生の発話の論理性を高める取組

広島県立安芸府中高等学校 教諭 久山 慎也

メモによる「概念化」がスピーキングにおける
「即興力」に及ぼす効果の検証
—用法基盤モデルに基づいたスピーキング指導を通して—

秋田県立秋田南高等学校 教諭(昭和女子大学大学院 在籍) 吉澤 孝幸

【調査部門 2件】

日本語母語英語学習者が使用する定型表現の分析
—「話すこと(やりとり)」と「話すこと(発表)」の技能育成をめざして—

筑西市立明野中学校 教諭(筑波大学大学院 在籍) 小出 凱渡

MTを学習ツールとするための考察
—英作文を学ぶ大学生を対象とした量的、質的調査—

関西大学大学院 在籍 湯浅 麻里子

セミナー

英検協会では、社会還元と英語教育発展への寄与を目的とした「実用英語の研修・教育」事業の一環として、教員向けセミナーを多数主催。有識者をお招きした基調講演や全国小・中・高の先生方による模擬授業発表、英検、TEAP、IELTS等各種検定試験や入試に関するお知らせなど、英語教育に関する最新情報をお伝えしており、参加者の先生方からご好評をいただいております。

詳しくは
こちらをご覧ください



過去の実績

- 主体的・対話的で深い学びの視点から見た授業改善
～新課程が始まった今、改めて考える～
- 新課程における小学校の「外国語」評価
- 新課程における中学校の「外国語」評価
- これからの英語教育に生成AIをどう活かすか



※写真は2019年度のもので、2023年度はオンラインで開催しました。

Interview

授業改善に関するオンラインセミナーに参加しました。基調講演では教育理論を学び、グループディスカッションでは参加した先生から自身の課題に対してフィードバックをもらえ、既存の教授法を見直しできる貴重な機会となりました。私は離島に住んでいますが、オンラインで最新の教育トレンドを知る事ができ、良い刺激になっています。これからも定期的に参加して、自身の現場指導改善に活かしていこうと思います。

中学校 教諭
別府 友美 先生

小学校、中学校および高等学校 教員に向けた英語教員海外研修

国の重要施策である「英語教員の資質向上」に寄与することを目的に、2003年度から小・中・高の先生方を対象に本研修を実施してきました。オーストラリアで、校種を越えて一堂に会する研修プログラムとして、教授法を学ぶだけでなく、各教育現場での状況や課題を参加者同士でディスカッションしあう機会となっています。2023年度は義務教育領域英語科担当指導主事を対象に実施しました。

- ※小学校教員向け研修は2012年度より開始。
- 研修の対象や場所、内容は上記と変更になる可能性があります。

Interview

2023年度義務教育領域英語科担当指導主事対象「指導助言力」向上研修に参加し、リーダーとして必要な素養、学習指導要領の深い理解に基づく最新の英語学習の在り方に加え、行政における予算獲得方法やITと教育の展望など、幅広い分野の学びを得ることができました。また、全国の指導主事の皆さんとネットワークを構築できたことは、とても貴重な財産となりました。今後は、本研修の成果を各地区の英語教育の発展と充実に還元してまいります。

指導主事
山下 真悟 先生

英検 英語教育研究センターのページへ



1963年 創設

1961年に社会教育審議会が文部大臣に対し、社会教育拡充方策の一環として、青少年および成人に学習目標を与え意欲を高める意味で技能検定が必要である旨を答申。これを受けて、「実用英語の普及・向上」を目的として1963年4月に財団法人日本英語検定協会が設立され、同年8月、文部省後援のもとに第1回実用英語技能検定(1級・2級・3級)を全国47都府県で実施、約38,000名が受験。第1回検定志願者数37,663名、合格者数15,259名。

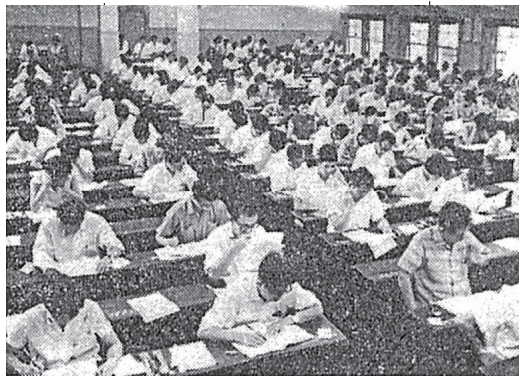
1968年 (昭和43年)

文部省の認定を受ける
英検の意義と実績が認められ、社会教育上奨励すべきものとしてこの年2月、「文部省認定の技能検定」に認定。

1960年代

1966年 (昭和41年)

4級 新設
社会教育的な見地から発足した英検。中学・高校など学校からの反響が大きく、基礎クラスの級として4級を導入。



きっかけは東京五輪

国際社会に復帰する大舞台1964年の東京五輪開催を控え、日本人の英語力の向上は、国としての課題でした。そこで誕生したのが実用英語技能検定「英検」です。その後も、国際化する社会のニーズに寄り添う形で多様化し、50年以上にわたり、英語資格試験のバイオニアブランドとして息づいてきました。



1980年代

1987年 (昭和62年)

準1級 5級 新設
1級・2級間の程度差を適正化するための準1級と、初級学習者を対象とした5級が新設され、英検は6つの級に。英語教育に関する優秀な研究企画に助成金を交付する「英検研究助成制度」を発足。

1990年代

1994年 (平成6年)

準2級 新設
第1回「児童英検」を実施
2級・3級間に準2級が新設され英検は7つの級になり、第3回検定で4級・5級の公開会場を開設し個人の5級受験が可能となる。第1回「(財)日本英語検定協会主催児童英検」を実施。

1991年 (平成3年)

学校への英検普及で 中学・高校特別準会場を設置
中学・高校など学校での英検の利用拡大にともない、さらに受けやすい試験を目指し第1回・第2回検定の土曜日に特別準会場を設置。

受けやすさの改善

その他検定への拡大

2000年 (平成12年)

文部省令による認定を受ける
青少年および成人の学習活動にかかわる知識・技能審査事業の認定に関する規則(文部省令)が施行され、8月、実用英語技能検定(英検)はその規定により認定。

2006年 (平成18年)

文部科学省の後援となる
政府方針により、平成17年度に、技能審査制度における「認定」というシステムが廃止。

2000年代

2001年 (平成13年)

年3回全級実施で受験機会を拡大
受験機会を増やすために、1999年に準2級と3級、2000年に2級を加えて実施してきた第3回検定。この年1級・準1級も入れて、年3回ともすべての級を実施する「フルグレード」の体制を整備。

2002年 (平成14年)

中学・高校特別準会場で 金・土曜日に英検実施
小・中・高校の週5日制に沿って、中・高特別準会場に金曜日を追加。「実践場面」での英語能力をより的確に評価するため、3級～5級の一次試験問題を改善。

2009年 (平成21年)

児童英検オンライン版をリリース
インターネットを使った新しいテストシステム「児童英検オンライン版」をリリース。

2004年 (平成16年)

BULATS、日本での受験が可能に
英国ケンブリッジ大学英語検定機構と提携。

2012年 (平成24年)

公益財団法人へ移行
公共性と公益性の高い団体として、公益財団法人への移行に向けた申請手続きを行い、内閣総理大臣より公益財団法人として認定する旨の認定書を受領。2012年4月1日より正式団体名称を「公益財団法人 日本英語検定協会」に改めました。

2010年代

2014年 (平成26年)

CSE1.0の発表
一般財団法人日本生涯学習総合研究所に委託して、国際基準規格であるCEFRと関連性を持たせた英語のテスト結果を比較可能とするユニバーサルなスコア尺度、「Common Scale for English」を開発。

2015年 (平成27年)

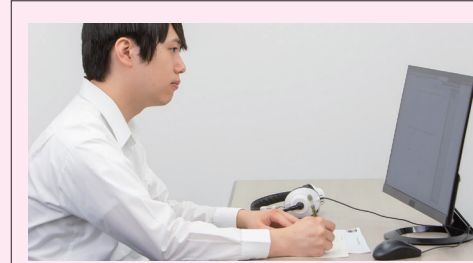
CSE2.0の発表
英語のテスト結果を比較可能とするユニバーサルなスコア尺度CSEの精度を向上させた「CSE2.0」が完成。英検の可否に加えて英検CSEスコアの表示をスタート。

2013年 (平成25年)

英検CBTの実施を開始
コンピューターを利用して英検を受験する英検CBTを開始。

2018年 (平成30年)

英検CBTの毎月実施を開始
4技能を1日で測定する英検CBTを8月より毎月実施。



時代の移り変わりと共に英語教育を取り巻く環境も大きく変化しています。環境が変化しても変わらず「実用英語の習得および普及・向上」の使命を全うするため、従来型の英検に加えてCBT方式の展開も進めています。

2010年 (平成22年)

英語運用能力試験IELTSの運営開始
日本人のさらなる英語能力向上を目的に、世界的に認められている英語運用能力試験であるIELTS(アイエルツ)を、英国の公的な国際文化交流機関であるブリティッシュ・カウンシルと共同運営することで合意。



2015年 (平成27年)

英検のテストブランドを統一 (英検テストファミリー)
英検CSEスコアの実用化に伴い、2015年4月より「英語能力判定テスト」と「児童英検」をそれぞれ「英検IBA」と「英検Jr.」に名称変更。「英検テストファミリー」としてテストブランドを統一。

2016年 (平成28年)

2級 4級 5級 ライティングテストを導入
2級 4級 5級 スピーキングテストを導入

2017年 (平成29年)

準2級 3級 ライティングテストを導入
これにより3級以上のすべての級において4技能化を実現。

2020年代

2021年 (令和3年)

「英検ESG」のサービス開始

2022年 (令和4年)

成績表に技能別CEFRを併記

2023年 (令和5年)

「生涯学習アカウント」のサービス開始

2020年 (令和2年)

英検準会場一般受験者受入を導入
自宅の近くの準会場で受験可能に。

英検2020 1day S-CBTの実施を開始
ライティング以外はパソコンで受験する英検S-CBTを47都道府県で原則毎週土日実施。

英検CBT全国実施へ
会場エリアを全国47都道府県に広げ、月1回の実施から原則毎週土日に実施へ。

2021年 (令和3年)

英検のCBT形式の試験を「英検S-CBT」に統合
「英検CBT」と「英検2020 1day S-CBT」を統合し、「英検S-CBT」として一本化。ライティングは手書きとキーボード入力を選択可に。

2014年 (平成26年)

TEAPの実施を開始
「大学教育レベルにふさわしい英語力」を正確に測定することを目的とした4技能型のアカデミック英語能力判定試験であるTEAPの実施をスタート。

2016年 (平成28年)

TEAP CBTの実施を開始
TEAPのコンセプトを継承したコンピュータベースドテスト。

2017年 (平成29年)

GCASの実施を開始
「ビジネスを動かす英語力」を測定する対面式スピーキングテストを開発。

2019年 (令和元年)

BULATSからLinguaskillへ
BULATSのサービス終了、アップグレード版のLinguaskill Businessへリブランディング。